川崎市

公文書館だより 51

生史料はじめました。



（『郡制有終記念帖』大正 12 年 3 月／個人蔵）

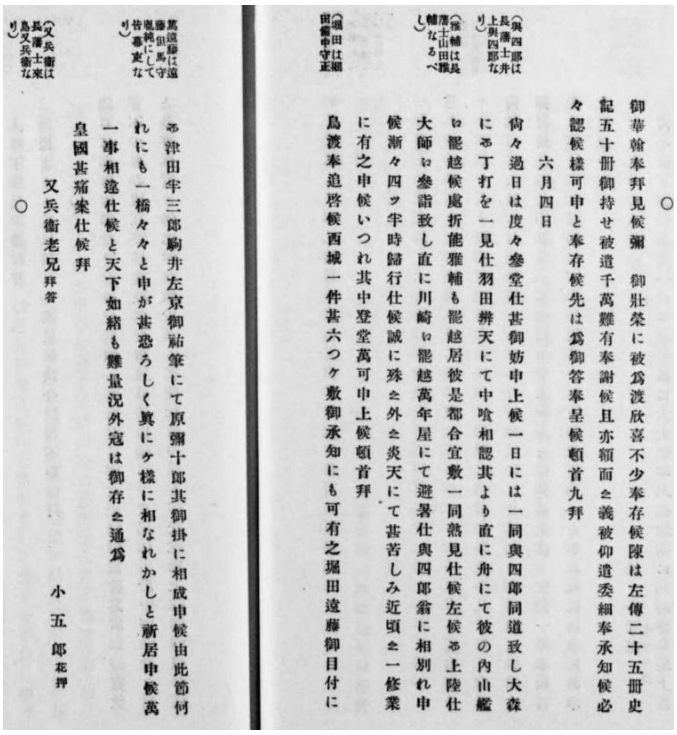
- 川崎クロニクル　－川崎地域の歴史を辿る－
  桂小五郎、川崎にやってくる
- 生史料はじめました。－展示解説！－
  【企画展示】 第22 回　在りし日の橘樹郡役所－郡役所廃止 100 年－
- 公文書館職員日記　－歴史を知れば日々が変わる－
- 新しいかたちの川崎市史（川崎の歴史の本）の
  出来上がっていく様子等を情報発信していきます！！
- 出来事とお知らせ
  行事予定（イベント）／令和8年度の活動（予定含む）／開催中の展示

川崎クロニクル

－川崎地域の歴史を辿る－

桂小五郎、川崎にやってくる

2026 年 10 月 3 日・10 日（土）にわたり、令和八年度川崎市公文書館第一回入門古文書講座ステップアップ編を実施しました。今回は講座のテキストとして使用した「安政 5 年（1858）6 月 4 日来島又兵衛宛て桂小五郎書簡」を紹介します。



御華翰奉拝見候彌　御壮栄に被為渡、欣喜不少奉存候陳は左傳二十五冊史記五十冊御持せ被遣千萬難有奉謝候且亦額面之義被仰遣委細奉承知候必々認候様可申と奉存候先は爲御答奉呈候頓首九拝

六月四日

尚々過日は度々參堂仕甚御妨申上候一日には一同與四郎同道致し大森にて而丁打を一見仕羽田弁天にて中喰相認其より直に舟にて彼の内山艦江罷越候処折能雅輔も罷越居彼是都合宜敷一同熟見仕候左候て上陸仕大師江參詣致し直に川崎江罷越萬年屋にて避暑仕與四郎翁に相別れ申候漸々四ツ半時歸行仕候誠に殊之外之炎天にて甚苦しみ近頃之一修業に有之申候いつれ其中登堂萬可申上候頓首拝

鳥渡奉追啓候西城一件甚六つヶ敷御承知にも可有之堀田遠藤御目付に而津田半三郎駒井左京御祐筆にて原弥十郎其御掛に相成申候由此節何れにも一橋々々と申が甚恐ろしく真にヶ様に相なれかしと祈居申候万一事相違仕候と天下如緒も難量況外寇は御存之通爲

皇国甚痛案仕候拝

又兵衛老兄拝答　　小五郎（花押）

（『木戸孝允文書 一』日本史籍協会、1927 年、40～41 頁）

桂小五郎（木戸孝允）は天保 4 年（1833）6 月 26 日に長州藩医の和田家に生まれ、やがて桂家の養子となります。藩校明倫館では吉田松陰の薫陶を受けます。嘉永 5 年（1852）に江戸へ自費遊学を果たし、斎藤弥九郎が創設した練兵館で修行して塾頭となっています。嘉永 6 年（1853）のペリー来航に影響を受けて江川太郎左衛門（英龍）に弟子入りして砲術などを学び、中央集権国家と国土防衛の必要性（尊王攘夷）を主張して長州藩のリーダーとして日本を明治維新へと導いていくことになります。明治政府の首脳としては立憲政治の確立を目指しました。

一方で、来島又兵衛は桂より 16 歳年上の長州藩士で、元治元年（1864）の禁門の変で戦死します。

今回紹介する書簡の内容は以下の通りです。

御華翰奉拝見候、弥　御壮栄に被為渡、欣喜不少奉存候、陳は左傳二十五冊、史記五十冊御持せ被遣、千万難有奉謝候、且亦額面之義被仰遣委細奉承知候、必々認候様可申と奉存候、先は為御答奉呈候、頓首九拝

六月四日

尚々過日は度々参堂仕、甚御妨申上候、一日には一同與四郎同道致し、大森に而丁打を一見仕、羽田弁天にて中喰相認、其より直に舟にて彼の内山艦江罷越候処、折能雅輔も罷越居、彼是都合宜敷一同熟見仕候、左候而上陸仕、大師江参詣致し、直に川崎江罷越、万年屋にて避暑仕、與四郎翁に相別れ申候、漸々四ツ半時帰行仕候、誠に殊之外之炎天にて甚苦しみ、近頃之一修業に有之申候、いつれ其中登堂、万可申上候、頓首拝

鳥渡奉追啓候、西城一件、甚六つヶ敷、御承知にも可有之、堀田遠藤御目付に而、津田半三郎駒井左京御祐筆にて、原弥十郎其御掛に相成申候由、此節何れにも一橋々々と申が、甚恐ろしく、真にヶ様に相なれかしと祈居申候、万一事相違仕候と天下如緒も難量、況外寇は御存之通、為

皇国甚痛案仕候、拝

又兵衛老兄拝答　　小五郎（花押）

詳しく内容を見ていきましょう。

まず、本文では来島からの手紙を拝見した旨を伝え、長州藩主がますます盛んなことで喜ばしいと記しています。さらに、来島が古代中国の歴史書である『春秋左氏伝』・『史記』を送ってくれたことに感謝の意（3頁に続く）

（２頁から続く）を伝えています。

この書簡は本文よりも追伸（尚々書）のボリュームが多いのが特徴です。そこには 3 日前（6 月 1 日）の出来事が記されています。

その日の桂は何名かと行動を共にしていたようで、同じ長州藩士の井上与四郎に同道して、大森で町打（射撃）を見物しています。羽田弁天で昼食をとり、そこから小舟に乗り「山艦」（外国艦船？）のもとへ行き、長州藩士の山田雅輔とも合流して、一同で「熟見」したそうです。そこから上陸して、川崎大師に参詣し、川崎宿万年屋で休憩したあとに井上と別れたそうです。どうやら当日は炎天下だったらしく、桂も非常に参ってしまっていたようです。

さらに付け加えられている追伸には、当時の将軍継嗣問題についての動向と感想が記されています。



（憲政五十年史 画譜【430-121 イ】、国立国会図書館「近代日本人の肖像」）

この頃の桂は 24 歳。萩から江戸に遊学中の身であり、剣術道場・練兵館の塾頭ではありましたが、現代風に言えば「学生」の立場であったと言えます。ちなみに桂はこの 2 か月後の 8 月に初めて藩内の職を得ています。

若き日の桂小五郎の一日がわかる史料でしたが、やがて長州藩は中央政局に加わっていき、桂も激動の時代を迎えることになります。壊滅寸前まで至る長州藩を支え、明治政府の重役になる桂の若き日の一齣でした。

川崎市公文書館では、開催された古文書講座のテキストを販売しています。今回の桂小五郎書簡だけではなく、様々な史料をテキストに使用しておりますので、よろしければ、御購入くだされば幸いです。

＜桂小五郎（木戸孝允）をもっと知りたい方へ＞
以下のような文献がありますので、ご参照ください。

●大江志乃夫『木戸孝允』（中央公論社、1968 年）。
●田口由香「幕末期における木戸孝允の対幕意識―第二次長州出兵段階を中心として―」（『山口県地方史研究』第 85 号、2001 年）。
●田口由香「幕末期における木戸孝允の政治構想―慶応三年を中心として―」（『史学研究』第 237 号、2002 年）。
●田口由香「幕長戦争段階における木戸孝允の政治構想」（『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 文化教育開発関連領域』第 51 号、2003 年）。
●松尾正人『幕末維新の個性 8 木戸孝允』（吉川弘文館、2007 年）。
●一坂太郎『日本史リブレット人 70 木戸孝允 「勤王の志士」の本音と建前』（山川出版社、2010 年）。
●落合弘樹「幕末政局と木戸孝允」（『明治大学人文科学研究所紀要』第七十六号、2015 年）。
●斉藤紅葉『木戸孝允と幕末・維新 急進的集権化と「開化」の時代 1833～1877』（京都大学学術出版会、2018 年）。
●下田悠真「木戸孝允は「討幕」を唱えたのか」（『山口県地方史研究』第 122 号、2019 年）。
●下田悠真「文久三年における長州藩による奉勅攘夷体制への志向と木戸孝允の役割」（渡邊大門編『日本歴史の諸問題』2025 年）。

生史料はじめました。
－【企画展】解説！！－

【企画展】あなたに伝えたい記録と記憶

第 22 回　在りし日の橘樹郡役所
―郡役所廃止 100 年―

2026 年 10 月 1 日（木）より、第 22 回企画展「在りし日の橘樹郡役所―郡役所廃止 100 年―」がスタートいたしました。



本企画展では、明治期から大正期にかけて存在した「橘樹郡役所」を取り上げて解説をしております。

明治 11 年（1878）、郡区町村編制法に基づいて、「府・県」の下に「郡・区」を、その下に「町・村」を置く行政区分が始動します。この時、現在の川崎市域を含む周辺一帯を管轄したのが「橘樹郡役所」でした。



複製古文書 40-36-164『大正四年橘樹郡統計一覧』
（大正四年橘樹郡統計一覧所収、当館所蔵）

郡役所は、「府・県」と「町・村」との中間に位置して、府県知事からの法令を町村へ執行するとともに、管下の町村長を指揮監督するなどの役割が期待されました。

明治 23 年(1890)、新たに郡制が公布されると、郡は独自に財産や議決機関(郡会)を組織することが定められます。これは、郡の位置づけが、単なる行政区画から地方公共団体へと変化したことを意味しました。

しかし、大正 10 年(1921)4 月、国会で郡制廃止案が可決され、そのなかで大正 12 年(1923)4 月 1 日の郡制廃止が正式に決定します。以降、郡役所は「府・県」や「町・村」への業務引継をはじめ、廃止により管下「町・村」に必要となる各種条例規則の整備促進など、現代風に言う「終活」を実施します。そして、郡制廃止から 2 年、全ての引継業務の完了をもって、今から 100 年前の大正 15 年(1926)7 月 1 日、名実ともに郡役所はその役割を終えました。

展示のなかでは、川崎市制施行についても、橘樹郡役所の立場から解説をしています。郡役所の視点に立てば、本市の市制施行は自身の管下にあった川崎町・大師町・御幸村の郡管下からの離脱を意味します。これに対して郡役所がいかに関与したのか、本市の成り立ちを考える上でも非常に重要な視点といえるでしょう。



橘樹郡役所 編『郡制有終記念帖』大正 12 年
（個人蔵）

橘樹郡役所自身、当時の郡制廃止を「有終」として扱っていた点は注目されます。展示スペースでは、この時期、郡役所によって発行された記念誌『郡制有終記念帖』を展示し、コピーにて全頁ご覧いただけます。

公文書館職員日記

－歴史を知れば日々が変わる－

川崎市公文書館歴史担当職員がどんなことをしているのか、日々の業務について書き連ねていきます。

＜2026.9.1(火)＞
本日から新しいデジアカ担当さんが１名着任。館内の案内を済ませ、歴史分野の業務について打ち合わせ。
第一回入門古文書講座ステップアップ編のテキスト作成に注力する。近世史料の翻刻作業。

＜2026.9.2(水)＞
新任のデジアカ担当さんへ閲覧対応のレクチャー。
本日も古文書講座のテキスト作成。テキスト選定に迷いが生じる！

＜2026.9.4(金)＞
申請いただいたレファレンス案件について調査。
文書引継作業の手伝い、館内で販売中の古文書講座テキストを増刷補充。今日も今日とて古文書講座のテキスト作成。あと１カ月あるとは言え、間に合うのか！？

＜2026.9.5(土)＞
販売中の古文書講座テキストを増刷補充。なかなか売れています。そして、今日は講師担当回ではないけど、「入門古文書講座」の最終日。司会を担当。古文書読解は学問である！参加者の皆様、お疲れさまでした！

＜2026.9.8(火)＞
本日はレファレンス対応多し。メール送信、調査、そして電話対応･･･。些細なことでもお問い合わせください。
デジタルアーカイブ構築のための作業も多し！
歴史的公文書の閲覧対応もあり。

＜2026.9.9(水)＞
今日もレファレンス対応、そしてデジタルアーカイブ構築のための作業多し！

＜2026.9.10(木)＞
レファレンス対応・デジタルアーカイブ構築作業。
古文書講座のテキスト作成。『石井泰助日記』を使用する予定です。ほかにもいろいろと･･･。

＜2026.9.13(日)＞
今日も古文書講座のテキスト作成に注力。気合い！
レファレンス調査も進みました。

＜2026.9.16(水)＞
今日も古文書講座のテキスト作成に注力。気合い！！

＜2026.9.17(木)＞
レファレンス調査、文書引継作業の手伝い、販売用講座テキストの補充など。古文書講座のテキスト作成は進んでいます。

「入門古文書講座」を皮切りに、今年度も講座の季節が始まりました。ここから立て続けに入門古文書講座ステップアップ編・中級古文書講座・歴史講座･･･と続いていきます。古文書講座のテキストは毎回唸りながら(！)作成していまして、題材を何にするかとても悩みます。くずし字で書かれた史料を翻刻する作業も大事な仕事です。

閲覧・レファレンス対応は歴史担当職員の基本業務になります。何か読みたい歴史資料や歴史に関する疑問点などがありましたら、ぜひお問い合わせください。

新しいかたちの川崎市史

出来上がっていく様子等を情報発信していきます！！

●今回は取材現場のリポート！

この本は主に９つのテーマで構成され、原稿を制作するため取材を進めていました。今回はその中の「かわさきと共に歩んだ ひとびとの物語」の取材現場をリポートします。このテーマは、人物への取材を通して背景にある川崎の歴史や文化を浮き彫りにする企画です。ここでは3名の方への取材したときの様子を取り上げます。

●高津区の郷土史研究家の鈴木さん

令和 8（2026）年 3 月、武蔵溝ノ口駅からほど近い「大山街道ふるさと館」で、高津区在住の郷土史研究家・鈴木穆（あつし）さんを取材しました。高津区で生まれ育った鈴木さんは、平成 8（1996）年からタウンニュース高津区版で 1,000 回以上にわたり、地域の文化や歴史について「高津物語」を連載執筆してきました。そのうち第 1 回から第 772 回までは書籍『高津物語（上巻・中巻・下巻）』にまとめられています。

今回の取材では、昔の大山街道周辺の町並みの様子や、戦時中の学童期の記憶、高津への思いなどが語られました。

鈴木さんは成人後、学校教員を経て川崎溝ノ口郵便局長を務めます。そして高津青年会議所の設立にかかわり、高津区民祭の前身となる「高津納涼祭」の発起人にもなりました。また、郷土資料を収蔵・展示する「大山街道ふるさと館」の開設にも尽力しました。高津への思いについて聞かれると、鈴木さんは「この土地に育ててもらった恩返しです。高津が好きですし、この歴史ある土地に生きた人たちの思いを後世に残したい」と話します。

子どものころの思い出について聞かれると、鈴木さんは太平洋戦争のさなかの小学生当時の記憶を語られました。

昭和 11（1936）年に生まれた鈴木さんは、学童期を戦争下の社会で過ごされました。近所の高津小学校の校庭には「たこつぼ」と呼ばれていた壕（ごう）が掘られており、兵士は壕の中から敵機に向けて機銃を撃っていたこと。疎開先の河川敷でグラマン戦闘機から機銃を掃射され走って逃げたこと。疎開先の裏山に爆弾が落ち、火の手が上がったことなど……。その当時の光景が鮮明に目に浮かぶほど詳細に語られました。

最後に、鈴木さんは「戦争は二度と嫌です。今ではこの高津の街も大きく様変わりし、この街並みを見ながら、平和になって良かったと感じています。」と語られていました。



●川崎沖縄県人会名誉会長の比嘉さん

沖縄県人会は、本土や海外に移住した沖縄県出身者が移住先で助け合うために各地で発足した団体です。川崎沖縄県人会は全国で最も歴史が古く、その設立は川崎市誕生と同じ 1924（大正13）年。川崎市内の工場で働く沖縄県出身者たちは、助け合いの精神「ゆいまーる」を大切にこの地で暮らしてきました。

1994（平成 6）年には、旧会館の老朽化のため、現在の場所に移転して新たに川崎沖縄県人会館が完成。琉球舞踊等の伝統芸能も披露できる大型のホールを備えた施設です。

季節ごとの行事や、三線（さんしん）、民謡、舞踊、エイサーなど沖縄文化の公演イベントなどが開催され、沖縄文化の継承の場であるとともに、川崎と沖縄の交流拠点となっています。

比嘉さんは、沖縄出身の両親の元、川崎で生まれ育った沖縄 2 世です。造船会社をはじめ、さまざまなお仕事を経験され、一時期には金属加工メーカーなどの経営者として、川崎のものづくり産業を支えてきました。ひたすら仕事にまい進し、多忙な日々を過ごしていた比嘉さんでしたが、2012 年からの約 10 年間は沖縄県人会の会長を務めます。就任当時、県人会の財政はかなり逼迫していたそうです。そこで比嘉さんは、さまざまな手立てを打って少しずつ財政を立て直し、県人会の安定した運営基盤づくりに貢献しました。さらに比嘉さんは、沖縄芸能や文化の普及にも尽力します。ラ チッタデッラでの「ハイサイフェスタ」への出店や、沖縄文化イベント「綾心～あやぐくる～」や「かりゆしフェスティバル」の開催など、川崎と沖縄の文化交流を推進してきました。

現在、県人会館では三線や琉球舞踊の教室を開いていますが、受講者の多くは沖縄出身ではない方なのだそうです。旅行で訪れるなどで沖縄を大好きになった人が、市内のイベント参加をきっかけに教室に通うことも多いといいます。比嘉さんは「大好きな沖縄の文化を、これからも川崎で広め続けたい」と話していました。

取材での比嘉さんのお話から、川崎と沖縄に深いつながりと歴史があることを知ることができました。



●地域の自然や文化を守るボランティアの石井さん

石井さんが暮らす麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然が広がる地域です。

秋田出身の石井さんは、麻生区に移り住み、子育てを通じて地域への愛着を深めていく中で、子どもは「ふるさとを選べない」と気づき、だからこそ、この土地をさらに良い場所にして次の世代に引き継ぎたいと思うようになりました。

1998 年から「おっ越し山ふれあいの森」での保全活動をはじめ、約 30 年にわたり地域の自然や文化を守るボランティア活動に取り組んできました。

石井さんが会長を務める「柿生の里クラブ」は、柿生駅近くにある「柿生の里特別緑地保全地区」の保全活動団体として、多摩丘陵の美しい自然が残る森や緑地で、下草刈りや、間伐、草花の保全などを行っています。

麻生区内では、以前から石井さんのように里山の自然保全に取り組む複数の市民団体や学校、農家などが活動していましたが、互いに交流し連携する場として、2001 年に「里山フォーラム in 麻生」が発足しました。その発起人となったのも石井さんです。

石井さんが事務局長を務める「里山フォーラム in 麻生」は、2026 年 3 月の開催で 25 回を迎えました。毎年、約 40 団体が麻生市民館に集まり、活動報告、講演、展示などを通じ交流しています。そのほか、里山の写真展や、小学生を対象にした環境学習ワークショップ「あさお里山こどもクラブ」などさまざまなイベントを通して、地域の自然環境や歴史を次の世代に引き継ぐ活動を行っています。

この日の取材は、柿生駅から徒歩 10 分ほどの場所に入口がある「柿生の里散歩道」を歩きました。「おっ越し山ふれあいの森」の雑木林を歩きながら、石井さんのお気に入りの樹であるヤマザクラや、保全に尽力している草花の名前などを一つひとつ教えていただきました。コナラやケヤキなど、多種多様な樹木があるのが雑木林の良さです。

石井さんは「今残っている、この木々たちを守りたい」と話します。石井さんは、多くの人々と関わりながら、ボランティア活動を長く続けられています。

「長年にわたり活動を続けられるのは、石井さんに人と人をつなぐ力があるからでは？」と尋ねると、「このような活動はだれかの個人的な力では成り立ちません。大切なのは、お互いを認め合うことです。人間はこの雑木林のようなものですから。多様な人が集まっているからこそ、みんな少しずつ違って、そこがユニークなのです。」と答えてくださいました。



「かわさきと共に歩んだ ひとびとの物語」では、鈴木さんや、比嘉さん、石井さんを含め全部で 10 名に取材しています。ご自身の言葉で語っていただくお話の背景には、どのような川崎の歴史があるのでしょうか。

本の完成をぜひ楽しみにしてください。

出来事とお知らせ

■行事予定(イベント)

歴史講座

【開催日】　１１月２９日（日）
【時　間】　１４時～１６時
【場　所】　川崎市生涯学習プラザ４０１大会議室
【テーマ】　**高津信用組合の設立**
【講　師】　落合 功 氏（青山学院大学教授）
【定　員】　８０名　　【受講料】５００円
【申　込】　以下の LoGo フォーム（〆切１１月１７日（火））
その他、往復はがき・来館

近代川崎に成立した信用組合について、その設立の経緯や銀行との違いを紹介します。

LoGo フォーム　　詳細はコチラ！

第二回　入門古文書講座

【開催日】　１２月５日、１２日、１９日（土）
【時　間】　１４時～１６時
【場　所】　川崎市生涯学習プラザ３０１会議室
【講　師】　布川 寛大（当館職員）
【定　員】　４０名　　【受講料】２０００円（テキスト代含む）
【申　込】　以下の LoGo フォーム（〆切１１月１７日（火））
その他、往復はがき・来館

LoGo フォーム　　詳細はコチラ！

■令和８年度の活動（予定含む）

４月　第２１回企画展「川崎の近世史を辿る」（～９月３０日）
第９回『川崎の歴史の本』編集懇談会

６月　川崎市公文書館システム（デジタルアーカイブを含む）の構築開始
『川崎の歴史の本』ワークショップ＆コンテスト（１）
現用公文書の廃棄

７月　第１０回『川崎の歴史の本』編集懇談会
『川崎の歴史の本』ワークショップ＆コンテスト（２）
現用公文書の引継ぎ（～１０月）

８月　第一回 入門古文書講座（２２日、２９日、９月５日）

９月　第１１回『川崎の歴史の本』編集懇談会

１０月　第２２回企画展「在りし日の橘樹郡役所」（～３月３１日）
第一回 入門古文書講座ステップアップ編（３日、１０日）
中級古文書講座（１７日、２４日、３１日）
『川崎の歴史の本』アンケート実施（～１１月１４日）

１１月　歴史講座（２９日）

１２月　第二回入門古文書講座（５日、１２日、１９日）

２月　『川崎の歴史の本』試し読みリーフレットの配付

３月　『川崎の歴史の本』完成・発行

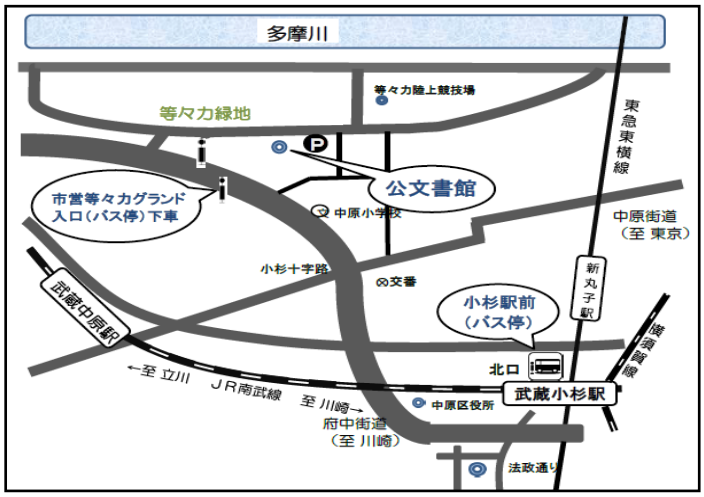
■開催中の展示

【常設展】
① 川崎市公文書館 －川崎市公文書館の役割－
② 川崎市域の変遷 ～川崎市の成り立ちとその広がり～
③ 公文書の変遷 ～近世から近現代まで～

【企画展】
第22 回 在りし日の橘樹郡役所 ←New

【小展示】
Vol.6 「川崎」を探せ！ ランキングの江戸時代

【特設コーナー】
「市史」の時代 -市制40周年の『川崎市史』編さん事業-



利用案内

［入 館 料］　無料
［開館時間］　8:30-17:00
［休 館 日］　月曜日、祝日法に定める休日
（休日が月曜日に当たるときは翌日も休館）
年末年始 （12月29日から1月3日）

川崎市公文書館だより 第51号　　令和8年 10 月 31 日 発行　　編集・発行／川崎市公文書館
〒211-0051 神奈川県川崎市中原区宮内4－1－1　　川崎市総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部公文書館
E-mail 17koubun@city.kawasaki.jp　　TEL 044-733-3933　　FAX 044-733-2400
URL https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/288-3-4-0-0-0-0-0-0-0.html

KAWASAKI CITY ARCHIVES